

# はばたけ

東京都社会福祉事業団

東京都八街学園

「はばたけ」

令和6年度 第1号

(通算 第58号)

令和6年6月28日発行

〒289-1103 千葉県八街市八街に151 ☎043-443-1021 FAX 043-443-7215

URL <https://www.jigyodan.org/yachimata-gakuen/> E-mail [info@yachimata-gakuen.jp](mailto:info@yachimata-gakuen.jp)

## ご挨拶

八街学園の園長に就任し、早いもので3年目となりました。この間、様々な出来事がありました。陰に陽に八街学園を支えてくださった関係者の皆様には、感謝の念が堪えません。大変にありがとうございました。

世間ではコロナ禍からの急速な回復がなされる中、児童福祉の分野では、昨年4月に「子ども基本法」が、本年4月に「改正児童福祉法」が施行されるという大きな動きがありました。そこには、子どもの意見表明を第三者が保証する「子どもアドボガシー」の考え方が盛り込まれています。子どもたちの意見が、「権利の主体者として生活を豊かにするための意見表明とその保証」という視点で運用されることを願いつつ、私たちもでき得る限りの努力をしたいと思っております。

八街学園においては、子どもたちが活発に思いを語ってくれる他、職員の方々も、生活の中で子どもたちから表出された意見や要望を積極的に議論の題材にする文化があります。昨年度には、職員の発案により、「子ども会議（小学生・中学生）」を立ち上げ、子どもたちが職員と一緒に自分たちの身近なことを話合う場を作ってくれました。今後は、プライベートな場やオフィシャルな場で表出された意見を私たち職員が真摯に受け止め、対話を行い、合意された事項を生活の中に活かす取組みを行いたいと思います。このような取組みによって、子どもたち自らが意見を表明し対話することの有用性を実感してくれることにつながり、最終的には、「他者と良好な関係を保ちながら自己決定により生活を組み立てていく」という「自立」への支援に結実していくものと確信しております。

「子どもは今を生きているのであって、将来を生きるのではない」。これは、子どもの人権の父、コルチャック氏の言葉です。私たちは、まさに、子どもたちが生きている「今」に立ち会っています。そのことの縁を深くかみしめ、子どもたちと一緒に、より良い生活を築いていきたいと思っております。

東京都八街学園 園長 財前仁

## 東京都八街学園 運営方針

### 1 子どもの権利擁護

子どもの権利を擁護する施設文化を醸成し、個々の子どもの状況に応じて最善の利益を施設全体で考え続けます。また、支援方針など子どもに関する決定を行う際には、子どもの気持ち、意見を理解し、受け止め、合意されたニーズとして、日課等の生活環境の整備や自立支援計画に反映します。

### 2 個別的養育の展開

子ども一人ひとりの気持ちや願いを受け止め、傷つきや発達段階等のアセスメントを踏まえて、安心できる環境のもと心身の回復と健全な育ちが叶えられるよう信頼関係を育みます。また、将来他者へ適度に依存しながらも、自分の主体的な選択に基づいて、より良い生活を模索できるよう支援し続けます。

### 3 子どもの多様なニーズに応じた生活形態

生活全般において平均的な質を保障しつつ、生活費必需品等、生活環境の様々な側面に配慮し、基本的な生活の中で、健康的な日々の営みを享受でき、家庭的な生活を感じられるように子どもの生い立ちや生活状況を踏まえた、多様かつ柔軟な生活環境の整備と提供を行います。

### 4 地域との連携

地域の多様なニーズに応じて、連携及び相互交流を図っていくとともに、地域社会に対して、子どもの状態や境遇について、正しい理解と対応がなされるよう働きかけていきます。

## 二分の一成人式



2024年2月、二分の一成人式を行いました。この行事は10歳という大事な節目を迎えた児童をお祝いするものです。

きっちりとした装いで、はにかみながら主役の児童が登場すると、普段とはまた違った姿に職員は感激!!万雷の拍手で迎えながら子どもたちが成長していく喜びを噛み締めました。

式では、『おほそのお話』『赤ちゃん人形抱っこ』『心臓の音を聴いてみよう』『産道めぐり』のプログラムを行いました。実際のサイズと同じへその緒や、生まれたばかりの赤ちゃんの体重を体験するたびに、子どもたちは驚きの声を上げていました。

ケーキを食べながら職員の10歳、20歳時の写真や話を見聞きし、メッセージカードを受け取った後は記念撮影です。素敵な笑顔の彼らの成長を、これからも見守っていきます。



## うさぎホーム

2023年6月に八街市内にグループホームを開設し、兎年だったこともあり、うさぎホームと命名しました。本園とは駅を挟んで反対側にあり、本園の子どもたちとは小学校と中学校の学区が違います。

児童2名でスタートし、2024年6月現在では児童4名が在籍しています。長期休暇には、海や野球観戦へ出かけたり、卒園生が遊びのボランティアとして来てくれました。

地域の方が調理員として勤務されており、毎日家庭的な食事を摂ることができています。

これからも八街の地域と共に、うさぎホームの生活は続きます。



HPのブログでは  
もっと沢山のイベントを  
紹介しています！  
QRコードからどうぞ→



### ★フレンドホーム(家庭生活体験事業委託家庭)を募集しています。

八街学園で暮らしている児童の中には、夏休みや冬休みなどに、自分の家庭に帰れない児童がおります。そこで、みなさまのご家庭に夏休みや冬休み、あるいは週末などに、児童を家族の一員として招いてもらい、家庭生活を体験させていただけるボランティアを募集しています。期間は1日から7日程度で、概ね3歳から12歳までの児童が対象となります。

### ★学習ボランティアを募集しています。

小・中学生を対象に、個別あるいは、グループでの学習をお手伝いして頂けるボランティアを募集しています。教育関係者・学生・および教育に関心をお持ちの方など、是非ご連絡ください。

### ★遊びを通じてのボランティア(小・中学生以下対象)を募集しています。

資格等は問いません。是非ご連絡ください。お待ちしております。  
ボランティア担当:平井 若林

### 八街学園を退所した皆様へ

学園を出て、一人暮らしをしたり、家庭に戻ったりなど様々な方がいらっしゃると思います。八街学園はそんな退所者の皆さんに、アフターケアとしてずっと関わっていき、何か手助けが出来れば、と思っています。

困ったことだけではなく、「話を聞いてほしい」、「なんとなく電話してみただけ」、そのようなちょっとしたことでも大歓迎です。

もしかしたら、転勤や退職で知っている職員がいない、ということもあるかもしれませんが。そういうときは、アフターケアの担当職員もいます。みなさんの連絡を待っています。

